

第4学年1組 虹の輪学習指導案

平成30年2月8日（木）公開授業Ⅰ

平成30年2月9日（金）公開授業Ⅲ

会場 2階-③（S 4年虹の輪）

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校

教諭 梅津 祐介

1 単元名 まちづくりイノベーション — アートでまちの魅力を高めよう —

2 本単元の価値

探究課題及び学習事項は以下のとおりである。

【探究課題】 人々のつながりの創出を目指すまちづくり	【学習事項】 ・まちの魅力を高める活動として、「まちごと美術館」を行う。 ・まちの魅力について考え、新たな意味を見いだす。 ・これまでの単元を振り返り、まちの魅力を高める活動について考える。
【対象】 ・人：肥田野 正明さん（まちごと美術館代表） 作家のみなさん ・もの：アート作品 ・こと：まちごと美術館「ことごと」	

これまでの学習で子どもは、「まちの魅力をもっと高めたい」という課題意識をもって、下町地域の魅力を発信するまち歩きガイドを実践したり（単元名「新潟市，再発見」）、北区松浜地域の活性化プロジェクトに参加したりしてきた（単元名「松浜 R プロジェクト in 附属小」）。これらの学習を通して子どもは、まちの魅力とは、まちの個性や人がたくさん集まる場所と考えている。このような子どもが、人と人とのつながりもまちの魅力の一つであり、多種多様な人とつながることに価値を見いだすことを期待する。

前単元で松浜地域の活性化について考えた子どもは、まちづくりにおけるアートの可能性に着目した。新潟市内にもアートを用いたまちづくりの事例がいくつかある。本単元で学習の対象とするのは、障がいのある人たちのアート作品（絵画や書）を商業施設や公共施設などに展示する活動「まちごと美術館」である。この活動には、まちなかに作品を展示することで、障がいのある人やその家族がまちに出掛けるきっかけとなり、多くの出会いが生まれるようにという願いが込められている。まちごと美術館代表の肥田野正明さん、アート作品を生み出す作家の皆さん、この活動にかかわる人々と交流することは、子どもが、「人と人とがつながる」まちづくりについて考える契機となる。ここに、まちごと美術館を対象として単元を構成することの価値がある。

本単元の主たる学習事項は、「まちの魅力を高めるために、アートで何ができるか」ということを考えることである。子どもはこの問いを探究する中で、理想とするまちの姿を描き、アートが果たす役割やその可能性を考え、「アートの力」についての理解を深めていく。

また、まちづくりについて考える際、自分たちだけを主体として考えるのではなく、多種多様な人の存在を意識することが重要である。具体的には、社会的な立場が弱い人（高齢者や障がいのある人など）に寄り添うことである。障がいのある人のアート作品を扱う意味はここにある。子どもが障がいのある人のアート作品やその作家の皆さんとかかわることは、障がいのある人に対する尊敬の概念を広げるとともに、共生的なまちのあり方を目指す視点を働かせることができるだろう。

子どもがもつ根本的な課題意識は、「まちの魅力を高めたい」という思いである。本単元は、その思いの実現をアートに求めている。子どもは、「なぜアートか」「なぜ障がいのある人の作品がよいのか」「自分たちには何ができるか」ということを考えながら探究を進めていく。その過程で「まちの魅力」の新たな意味を見だし、子どもなりの言葉で説明できることが、まちづくりの一つのあり方を導いた子どもの姿となる。

3 目指す姿

学びの道筋を描き、思いを実現させていく子ども

具体的には、まちごと美術館の活動内容に対する共感の気持ちや、アート作品に対する感動を基にしてよりよいまちの具体像を描き、その実現に向けた方法を考え、主体的に活動する姿。

4 働かせる「見方・考え方」

○広範な事象を多様な角度から俯瞰して考えること

- ・社会の中では人と人とが互いにかかわり合っているという相互関係に着目すること

（以下、探究的な「見方・考え方」）

○各教科等の特質に着目すること

- ・造形的な要素に着目すること（造形的な「見方・考え方」）
- ・言葉の意味、働き、使い方等に着目すること（言葉による「見方・考え方」）

5 育成する資質・能力 別紙、「指導計画」参照

6 指導の構想

アートを用いたまちづくりの可能性に着目した子どもは、まちごと美術館代表の肥田野正明さんの話を聞いたり、展示されている作品を鑑賞したりした。また、福祉施設で制作風景を見学したり、アート活動に対する作家さんの気持ちを聞いたりもした。子どもは作品の素晴らしさに感動するとともに、まちごと美術館の趣旨に共感し、「アートでまちの魅力を高めたい。自分たちで何ができるか」という思いを高めた。この思いをかたちにするために、子どもは肥田野さんと交渉して作品をお借りし、自分たちの手によるまちごと美術館を行ったのである。



子どもは、まちごと美術館を実践できたことに大きな喜びを感じている。しかし、この段階で、子どもがとらえているまちの魅力とは、まちの自慢やまちの個性、アート作品をまちなかに展示するという行為のことであり、人とのつながりにはそれほど目が向いていない。このような子どもに次のように働き掛ける。

働き掛け1-①（1日目）

実践したまちごと美術館で「まちの個性」「まちの自慢」等のまちの魅力が高まったと説明できるか問う。

「まちの魅力」の意味をとらえ直す必要性に気付かせるための働き掛けである。まちごと美術館を行ったことに満足している子どもに、単元前や単元の学習を進める中で子どもがとらえたまちの魅力「まちの自慢」「まちの個性」「アート作品を展示するという行為」等を提示し、活動したことによってこれらのまちの魅力が高まったと説明できるか問う。子どもは、自分たちの手でまちごと美術館を実践したことに手応えを感じている。しかし、そのことを提示された言葉で説明することが難しいと感じた子どもは、まちごと美術館によって高まる魅力は別の何かではないかと考え始める（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。

働き掛け1-②（1日目）

自分たちの手でまちごと美術館を実践して、まちの魅力が高まったと思ったのはどんなところか問う。

まちごと美術館の活動を総括させるための働き掛けである。まちごと美術館によってまちの魅力が高まったと思ったのはどんなところか問われた子どもは、タブレット端末で撮影した写真を見たり、グループで話し合ったりしながら（ツール活用能力、協働性）、まちゆく人に「この作品はすごいね」「どの作品も家にも飾ってみたいと思う」というように作品の素晴らしさに感動してもらえたこと、作家さんの存在を知ってもらえたことなど、自分たちが伝えたいことが伝わったことを述べるだろう。さらに、まちごと美術館を実践したことによって分かったことや感じたことについても子どもに述べさせる。探究的な「見方・考え方」を引き出すのである。子どもは、まちゆく人に自分たちのがんばりを認めてもらえたこと、そこで会話のやりとりが生まれたことなど、探究的な「見方・考え方」を働かせて、このような「人と人とのつながり」が生まれたこともまちの魅力の一つなのではないかと考え始める（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。

働き掛け2（1日目）

肥田野さんから、まちの魅力について話を聞く場を設定する。

「まちの魅力」の新たな意味を見いださせるための働き掛けである。「人と人とのつながり」がまちの魅力ではないかと考え始めた子どもに、肥田野さんの話を聞く場を設定する。肥田野さんからは、まちの魅力の一つは「人と人とのつながり」が生まれることであり、まちごと美術館がその役割を果たすことを目指しているという話をしてもらう。これによって、探究的な「見方・考え方」を明確化させるのである。

そして、肥田野さんからは、これまでの単元で対象としたまちづくりの活動（野内隆裕さんによる下町のまち歩き、松浜Rプロジェクトによる地域活性化の取組）についても、人と人とのつながりという視点で振り返ってほしいという話をしてもらう。これまでの単元においても子どもは、「まちの魅力を高めたい」という思いをもって活動してきた。子どもは探究的な「見方・考え方」を働かせて、「私たちがかわかってきたまちづくりの活動でも、人と人とのつながりが生まれていたのだろうか」と、これまでの単元で対象としたまちづくりに改めて目を向け始めるのである（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。

働き掛け3-①（2日目）

これまでの単元で対象としたまちづくりでは、「人と人とのつながり」が生まれていたのか問う。

本単元と、これまでの単元の関連性を図らせるための働き掛けである。下町のまち歩きを行った「新潟市、再発見」は「魅力を見つける」活動、松浜地区の活性化の取組について学習した「松浜Rプロジェクト in 附属小」は「魅力を生かす」活動、そして、まちごと美術館は「魅力をつくる」活動であるというのが子どもの認識である。このような認識をもった子どもに、これまでかかわったまちづくりの活動では「人と人とのつながり」が生まれていたのか問う。これによって、それぞれ魅力の高め方が違うと考えている活動を一つの視点でとらえさせるのである。探究的な「見方・考え方」を働かせた子どもは、まちづくりの活動であれば、同じように人と人とのつながりがあるはずだと考え、その具体的に目を向け始める（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。



「魅力を生かす」活動、そして、まちごと美術館は「魅力をつくる」活動であるというのが子どもの認識である。このような認識をもった子どもに、これまでかかわったまちづくりの活動では「人と人とのつながり」が生まれていたのか問う。これによって、それぞれ魅力の高め方が違うと考えている活動を一つの視点でとらえさせるのである。探究的な「見方・考え方」を働かせた子どもは、まちづくりの活動であれば、同じように人と人とのつながりがあるはずだと考え、その具体的に目を向け始める（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。

働き掛け3-②（2日目）

これまでの単元で対象としたまちづくりで生まれた「人と人とのつながり」とは、どのようなものだったのか問う。

魅力が高まったまちの姿を確かにさせるための働き掛けである。過去の単元で対象としたまちづくりで生まれた「人と人とのつながり」とはどのようなものだったか問われた子どもは、探究的な「見方・考え方」を働かせて、これまでの学習の中に新たな価値を見いだす（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。魅力が高まった具体的なまちの姿を確かにするのである。

特に、野内隆裕さんが行っているまち歩きの活動は、社会的に価値あるものと広く認められている（2013、2014年グッドデザイン賞、第2回ニイガタ安吾賞）。野内さんの活動の中に人と人とのつながりを見いだすことで、自分たちの手によるまちごと美術館の活動が、魅力を高める上で貢献できたのか考え始めるのである（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。

働き掛け4（2日目）

実践したまちごと美術館でも「人と人とのつながり」が生まれていたのか問う。

新たにまちごと美術館の活動を創造させるための働き掛けである。自分たちの活動が、魅力を高めることに貢献できたのか考えている子どもに、実践したまちごと美術館でも「人と人とのつながり」が生まれていたのか問う。これによって子どもは、「人と人とのつながり」という視点で新たな活動を創造することへの意欲を高める（③態度）。

人と人とのつながりが生まれるように伝え方を工夫したいと考える子どももいれば、まちごと美術館を行う適切な場所について考える子どももいるだろう（②思考力・判断力・表現力）。「どの場所がよいのか」と考えている子どもの中には、まち歩きコースの終着点でもある野内さんが経営するカフェに注目するかもしれない。

このように、自分の思いを実現させようと主体的に活動する姿が、本単元で目指す**学びの道筋を描き、思いを実現させていく子どもの姿**である。

7 指導計画 全25時間

別紙「指導計画」参照

8 本時の構想<第1日目>（45分授業）

(1) 本時のねらい（本時 17/25時間目）

まちごと美術館を対象としたこれまでの活動を多様な視点から総括することを通して、人と人がかかわり合うという相互関係の大切さに気付き、まちの魅力の新たな意味を見いだす。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>1 まちの魅力のとらえが曖昧であったことに気付き、意味をとらえ直す必要性を感じる。 ☆総合①② ・中央区役所に作品を展示した。通行する人</p>	<p>○指示「自分たちで、まちごと美術館をやってみました。感想を教えてください」 ※ 活動の様子を写真で掲示する。 ※ 学習の目的が、まちの魅力を高めること</p>

が作品に感動してくれてうれしかった。
・実際に活動したら、まちごと美術館の役に立つことができたような気がする。

- ・まちごと美術館は、「まちの自慢」や「まちの個性」という言葉では説明できない。
- ・まちの魅力は、「まちの自慢」とはもう少し違う何かだと思う。
- ・アート作品をまちなかに展示すること事態が、まちの魅力とはいえないだろうか。
- ・展示することが高まったって、しっくりこないな。
- ・まちごと美術館は、確かにまちの魅力を高めることにつながる活動だ。でも、何が高まったのかははっきり言えないな。
- ・何を高めたのかははっきりさせたい。

2 これまでの活動を総括し、活動の価値を整理する。

☆総合①② ☆協働性
☆ツール活用能力

<作品や作家さんについて>

- ・まちごと美術館をやってみて、作品の素晴らしさを十分伝えられたところ。
- ・こんな素晴らしい絵を描いている人がいるってことを知ってもらえたところかな。
- ・だから、作家さんの生きがいにつながるんじゃないかな。

<まちごと美術館について>

- ・肥田野さんが始めたまちごと美術館の活動に協力できたところ。
- ・障がいのある人もない人も楽しく生きるまちになるお手伝いをできたところかな。

<人との交流について>

- ・まちを歩いている人に絵の説明をしたら、「がんばってるね」と褒めてもらった。そういう会話が生まれたところだと思う。
- ・作品を通して、初めて会った人ともつながれた気がする。出会いがあったところかな。

3 まちの魅力の新たな意味を見いだす。

☆総合①②

- ・今日の意見で共通することは、人がかかわっていることかな。
- ・絵を見る人と作家さん、作家さんと私たち、私たちと肥田野さん、いろいろな人がつながっているよ。
- ・私たちの活動が、作家さんと絵を見た人をつなげたことになったのかもね。
- ・人と人がつながるまちって、なんか素敵。
- ・これまでの単元でも人と人とのつながりがあったはず。まちって人のものだし。

4 本時の学習を振り返る。

☆総合①②③

- ・私たちの活動をいろいろな視点から考えられてよかった。
- ・アートを通して、いろいろな人とのつながりが生まれる。つながりが生まれると毎日が楽しくなる。
- ・この活動で生まれたつながりを大切にしたい。

であったことを確認する。

○発問「まちごと美術館で『まちの自慢』、『まちの個性』などのまちの魅力が高まったと説明できますか」

【働き掛け1-①】

- ※ 単元前や単元の中で子どもがとらえているまちの魅力「まちの自慢」「まちの個性」などを提示する。
- 学習課題を設定する。

まちごと美術館で高まった「まちの魅力」は何か。

○発問「自分たちの手でまちごと美術館を行って、まちの魅力が高まったと思ったのは、どんなところでしたか」

【働き掛け1-②】

- 指示「司会者、書記を決めて、グループで話し合しましょう」
- ※ グループの意見を模造紙に記録させる。
- ※ タブレット端末に記録した写真や動画を見ながら話し合いをさせる。

○指示「意見の中で、魅力が高まったと特に思うところに☆印を付けましょう」

○指示「☆印をつけたところを教えてください」

○指示「まちごと美術館代表の肥田野さんに今日の授業の感想を聞きましょう」

【働き掛け2】

- ※ 肥田野さんには、以下の内容を話していただく。
- ・出された意見に共通することは何か。それは、人と人とのつながりを生んでいること。
- ・それこそが、まちの魅力であること。
- ・これまでの単元がどうであったか振り返ってほしいこと。

○指示「振り返りシートを記入しましょう」

- ※ 振り返りシートは、「虹の輪で大切にしたい七つの視点」「今日のキーワード」「まとめ」で構成されている。

(3) 評価

まちごと美術館によって高まったまちの魅力について、何を視点にして考えているか。

(☆発言 ☆振り返りシート)